



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年3月1日

3月号・第146号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents



多士済々.....	①	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑮
新春講演会.....	②	ならやま景観整備.....	⑮
永年会員感謝状贈呈式・受賞者喜びの声..	③ ④	自然教室チームだより①.....	⑰
GreenGiftプロジェクト協定書締結式.....	⑤ ⑥	自然教室チームだより②.....	⑱
Monthly Repo.ならやま.....	⑦	行事案内.....	⑲
里山の今.....	⑧ ⑨	3月例会案内・新入会員歓迎会	
歴文研修会・河内馬飼いの里.....	⑩	行事案内.....	⑳
やさしい昆虫講座④.....	⑪	4月例会予告 & 例会年間計画概要	
青垣春秋.....	⑫	奈良学クイズ.....	㉑
Galleryならやま & 仲間入りしました.....	⑬	幹事会報告・ペン画に寄せて.....	㉒
俳句百景.....	⑭	奈良学クイズ続・編集後記.....	㉒

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。 URL <http://www.naranature.com>



番頭役に ぴったり 弓場厚次さん

顧問 川井 秀夫

この人を「弓さん」と親しみをこめて呼ぶのは私ぐらいのものでしょうか。



おん祭りの晴れ姿 (南都侍)

それ程、公私ともに長いお付き合いが続いています。

当会には設立時より入会され、二代目事務方の責任者として、また活動現場では番頭役として大いにサポートして戴きました。

忍辱山国有林での間伐作業には先導役としてご活躍して頂き、寒い時期の昼時にはお手製のフカヒレスープ・玉子スープがヤル気を鼓舞して呉れました。

奈良へ帰るとリーダーの寺田正博氏・阿部和生氏を交え必ず飲み会となり、メートルが上がると談論が激しくなり、会の在り方、会の行く末に対しこちらが辟易することが度々でした。会の運営、発展に建設的なご意見として受け止めながらも、丁々発止と火のつく様な論戦になった事も、遠い記憶として懐かしく蘇ってきます。

当時、県内の東海・近畿自然歩道約140キロを年間11回に分け、植物・野鳥観察、史跡・社寺をプロットしながら、オリジナルマップ

の作成に取り組み、延べ500キロを踏破致しました。

先述の寺田氏をリーダーに、弓場氏を事務方として人気行事になったものです。

マップ作りは完結しませんでした。現在のIT技術を駆使すれば立派な冊子が誕生しただろうと少し悔いが残ります。

奥様はスキーの名手、太極拳の有段者であり書道にも造詣が深いと伺っております。ご本人もつい最近まで全国の名山を踏破されたクライマーであり、地理には明るく我々の野外活動に不可欠な存在として、今なおサポートして頂いております。

先年、心筋梗塞・早期胃ガンと相次ぐ大病を克服されましたが、現場復帰を実現して呉れました。エコファーム、クラブ活動など当会の遊撃手として身を惜しまず頑張っておられます。

また、私など体調不良の際には、彼の薬剤師としての知識を傾聴し、健康管理の糧として心強く思う今日此頃です。

長年、当会の名番頭役としてのご尽力に対し心から喝采をお送り致します。好漢・減酒、禁煙に配慮され、同志として益々のご活躍を期待しております。

本年は喜寿を迎えられる由、盛大に祝いの杯を挙げましょう。



初期のならやま森林整備
(弓場、鳥井、森、安川、寺田)

永年会員表彰&新春講演会

開催日時：平成26年 1 月26日

13時～15時30分

場 所：奈良市中部公民館 第4講座室

講 師：奥村 博司 准教授

(近畿大学農学部 環境管理学科)

演 題：「里山の収支簿」

～里山を維持・管理する意義を考える～

参 加 者：会員55名 一般10名 計60名

I) 永年会員表彰

講演会に先立ち永年（10年）会員の表彰式が行われた。

表彰該当者は8名（小田進八郎、齋藤和子、境 寛、福谷峇子、古川祐司、堀川豊司、吉村さつき、和田啓志）(50音順敬称略)の各氏で、境、古川、吉村、和田の4名の方が出席され、藤田会長より感謝状が授与された。

受賞者を代表して古川氏より挨拶があった。

II) 新春講演会

奥村先生は、窒素循環を通じて現在我々が直面している地球環境問題に言及し、里山の役目、重要性、問題点などを明らかにされた。また、近畿大学が位置する矢田山丘陵北部の里山、とくに現在は笹や竹、雑草で埋もれているありし日の水田や畑地がどのようなであったかを明らかにされたのは、我々奈良在住者にとっては非常に興味深いものでした。

先生の講演によると、我々が取り組んでいる里山は「土」「水」「空気」「食べ物」「エネルギー」を作り、生き物の家となっている。



担っている。

この里山の機能が「環境の維持と変動の緩和」「地球温暖化防止」「生物多様性の保持」「エネルギー・食糧問題の解決」を

里山では様々なものが入り、作られ、出ていくが、その基本的な要素は大気からの栄養分、地下の母岩からのミネラル分、植物の腐植による栄養分である。



里山はそれらが相互に作用し、森・里・川・海の連環を通じて自然を維持する役割を果たしてきた。

その中でも大事な役割を果たしているのが土壌である。里山では落ち葉などの有機物が腐食して作られる腐植物、地下の母岩が風化して作られる粘土によって土が作られる。

里山を巡る自然には様々な循環があるが、窒素を巡る循環には特に注意が必要である。

窒素は植物の体を形成するのに必要な元素で、根粒菌の働きや稲妻などの自然現象、更には人間の肥料散布などで供給されてきた。加えて、工場の排煙、自動車の排気ガスなどの人間の活動や黄砂などの自然の働きにより、窒素の土壌への供給は増えている。

過剰になれば、土壌から水中に溶けだし、河川、地下水を通じ海へと流れ込み地球全体的な富栄養化の状態を引き起こし、結果として生物の生態系を変えてしまう。空中に排出されたものは酸性雨となって降下し、植物に直接に被害を与え、森林を破壊する。それにとどまらず、窒素循環の中で亜酸化窒素（N₂O）を作成し、空中に放出し温暖化ガスとなり、炭酸ガスより地球環境にとって何倍も有害である。このような悪循環を断ち切るためにも多様性豊かな里山育成は重要で、地球環境改善にも寄与する。

講演会終了後、森 英雄氏による当会のナラ枯れへの取り組みに関して、「ナラ枯れ調査結果と今後の対応について」、また、平常男氏による水生昆虫類の調査結果から見た「ならやま池の水生昆虫類の推移」と題して二つの研究発表が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

(高本 実男)

永年会員感謝状贈呈式

受賞者喜びの声

受賞者の方々に、本会入会のきっかけ、思い出に残っている事、今後の抱負、後輩に伝えたい事、と共に喜びの声をお聞かせ頂きました。

小田進八郎様：



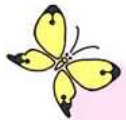
自然大学で活躍された職場の先輩からの勧めがきっかけで自然大学に通い、終了後、地域との繋がりを考慮して本会に入会しました。

奈良の古道や自然歩道を歩いたことも楽しかったし、ボランティア的な活動も退職後の生きがいになりそうでした。

しかし、リタイア後の40年ぶりの学生生活があまりに新鮮かつ濃密だったため行事への参加も急減、今ではたまに例会に参加させていただく程度になってしまいました。その間に会員は急増し活動内容も広がり、本会は飛躍的な発展を遂げました。

そんな訳で、今回の表彰は、たいへん心苦しいものでしたが、今でも自然大学に連なる人々の存在が大きな財産になっていること、例会等への参加は他では得られない楽しみであることをお伝えして、お礼の挨拶といたします。

齋藤和子様：



この度は、十年目の表彰をして頂き有難うございました。

この十年のうち後半（平成20年12月から）は、まさかの脳内出血による左半身不随、回復後四年目には不注意による二年続けての骨折入院で今に至っています。

病後は、勝田さんが会報誌担当の間、地域情報のコーナーへの投稿での参加でした。

入会は、シニア自然大学の同期の大石さんのすすめです。楽しそうなので入ってみようかなって思いました。その後、病気をするまで、例会や各種イベントに参加、樋口さんの車に乗せて頂いたりして黒髪山キャンプ場で工作したり、又、熊野古道、川上村三之公へのバス旅行、大和三山巡り、山の辺の道などどれも思い出に残る楽しい行事でした。

なら山の日々の発展の様子 素晴らしいです。皆々様も「健康第一」に楽しい会への参加を続けて下さい。私も体力を付けて、又、参加出来たらと思っています。

境寛様：



本会入会のきっかけは、2003年3月シニア自然大学9期花組の卒業に当たって、奈良での活動の場所として当たり前のように入れさせていただきました。当時はまだならやまベースキャンプがなく、奈良市街地の近くでの活動の場所として、私に関わっていました奈良市黒髪山キャンプフィールドを川井会長に紹介したのも、この時でした。

思い出に残っている事は、黒髪山キャンプフィールドで、子どもたちに野草料理・自然工作の指導を頂き、子どもたちの楽しそうな笑顔を見せていただいたことでしょうか。

今では少しきつい山行でしたが台高山脈の明神平を例会で案内して野生の鹿の群をみました。今後の抱負は、ならやまの活動は参加がやや難しいのですが、子どもたちのアウトドアでの活動に、これからも関わって行きますので、皆様のご協力をお願いします。

後輩に伝えたい事は、鹿の食害やナラ枯れが問題になっていますが、会のキャッチフレーズ「わたしたちは、大和の自然を愛します」の下に動植物と人の共生を願っています。

境谷苓子様：



この度は、永年会員の表彰をして頂き有難うございました。長期欠席しておりますのに、この様な感謝状を頂き大変恐縮しております。

入会のきっかけは、歩こう会仲間でシニアOBのお友達が紹介して下さい、喜んで入れて頂いた次第です。

一番の思い出は、東海自然歩道縦走の時のことです。当時は警報時以外は実施でした。その日は大雨注意報は出ていましたが思い切って行ってみますと、そこには案内役の三木さんがおられ、笑いながら「誰も来ないと思ってた、でも行きましょう。」と出発。終始どしゃぶりの中、三木さんは色々な樹木や草花の説明を丁寧にして下さいました。お陰様でこのシリーズ、完全縦走できたのは勝田緑さんと私の二人でした。

川井会長や寺田様から素晴らしいご褒美を頂戴し感激いたしました。翌年、シニア自然大学校花組に入りましたが、三木さんがアシスタントとしておられびっくりしました。

老々介護も終わり、双子の孫も手を離れましたので、又復帰させて頂きたいと思っております。その節はよろしく願いいたします。



古川祐司様：

入会のきっかけは、2003年春シニア自然大学校を卒業する際、OBが奈良で活躍している団体と聞いて入会しました。

思い出に残っている事は、一つは、ならやまの里山林との出会いです。このような、素晴らしい里山が市街地のど真ん中に残されていたことに感動し、ならやまプロジェクトにのめり込む切掛けになりました。

もう一つは、地元の人との出会いです。スタートして間もなく、佐保台の水本さん、法華寺町の鈴木さんの2人が、趣旨に共感して参加されました。

これが、当会が地域に根を下ろしてさらに発展する契機となる素晴らしい出逢いでした。

今後の抱負は、里山林の生態系は、カシナガキクイムシという新たな危機に遭遇しています。森林技術センターや森林総研と協働で進めている試みが、解決策につながることを信じ、見守っていきます。

後輩に伝えたい事は、笑顔で始まり笑顔で終わる「ならやま」であってほしい。人も自然も同じように慈しむ心で活動する仲間の笑顔は、我々の誇りであり、やる気の源泉であると思うからです。



堀川豊司様：

会員継続10年ということで、畏れ多くも感謝状を頂戴し痛み入ります。シニアの私にとっては、「はや10年！」が素直な感想です。

私が本会に入れて頂いたきっかけは、確かシニア自然大学同期の古川祐司さんからハイキングのお誘いだったと思います。当時は歩く行事も多く企画され、特に印象深いのは、雪中の三峰山で弓場さん持参の美酒を賞味しながら、花見ならぬ美しい霧氷風景を満喫したことです。

本会で私が感心していることは、野外作業、自然観察、歴史・史跡、文学などの分野にも蘊蓄の深い方が必ずおられることです。そしてお酒を積極的に嗜む方も多いことです。私は今歴史文化クラブに属していますが、例会の予備資料の豊富さと当日の解説が素晴らしい。

私にとって甚だ居心地の良い会です。今後ともよろしく、お付き合いをお願いします。

吉村さつき様：

いつの間にか10年



夫の定年で現在の地に家を建て住むことになりました。知らない人ばかりでさて何をしようと思っていた時にご近所の方から入会を勧められました。なんだか面白そうと直ぐに入会しました。

当時は植物や野鳥の観察会が主で丁寧に解説を受けました。小さな子供がなに、なにと聞く様な気持でした。植物の不思議さに感激しました。ユリに似ているけれど葉が違うしと果実をとって持つて行くとウバユリで花が咲くまで7年もかかると教えられました。むやみに採取してはいけない事も知りました。

ならやまでは笹を伐り、現在の遊びの森のソヨゴやヒサカキを皆で伐採しました。光が射しだんだんと美しくなってきました。爽快な汗をいっぱい掻きました。特に黙々と笹の伐採をしておられた中畑さんの姿を今でも思い出す事があります。今では里山の姿や、組織が整いましたが、先輩方の努力のおかげと感じています。

会のモットー通り無理をせず自分のできる事を機嫌良く長く続けたいと思っています。いつも楽しい時をありがとうございます。



和田啓志様：

ネイチャー大好き

子供の頃が大戦中で、食食物不足、その為、食糧増産の手法を覚えました。そして、休日や余暇は“生き物を育てる”ことに、主眼を置くようにしていましたが、意を満たすことが出来ず、退職してからは、デスクワーク的な“お遊び”は一切排除、専ら庭仕事と野山の徘徊をしています。それも“観察会”のような知識を必要とするものは、なるべくご免。

このような次第で、シニア自然大学、生駒棚田クラブ、ネイチャーならに首を突っ込んだのです。

いいですね・・・畑仕事、里山整備、低山歩き・・・若いころから出来たら良かったのですが、今、楽しんでます。感謝です。

もう80才に近づき、皆さんの色々なお誘いに乗るのが精一杯になって来ましたが、まだまだ、元気なつもりです。

自然に親しむのが一番ですね。

最後は自然に還る。

Green Gift プロジェクト

協定書 締結式

平成 26 年 2 月 13 日（木）ならやまベースキャンプに於いて、奈良県における「環境教育及び環境保全の促進にかかる協定書」を「奈良県」、「東京海上日動火災保険」、「奈良・人と自然の会」との間で取り交わす締結式が行われました。



当日は朝から小雨模様の天気となり式典の開催が危ぶまれましたが、開始直前には雨も上がり時おり雲間からは太陽も顔を出し会場は早春の日差しに包まれました。

式典には「奈良県」より、くらし創造部 上山幸寛次長はじめ風致景観課 横井主幹、坂野係長、南田主査、農林部森林整備課 藤平係長、吉村主査が出席されました。一方「東京海上日動火災保険」より、執行役員の木内充 関西業務支援部長、奈良支店 由村支店長、副田業務グループリーダー、玉川支店長代理等の皆さんが出席されました。



当会は藤田会長、木村副会長、森副会長はじめ総勢 50 名余りの会員が式典に参加しました。

また奈良テレビや 奈良新聞等の地元メディアの取材がありました。

はじめに、東京海上日動火災保険の由村奈良支店長より同社の「Green Gift」プロジェクトの概要の紹介がなされました。このプロジェクトは、同社創立 120 周年の記念事業として 1999 年東南アジア、南アジアを中心にマングローブの植林を進めることからスタートした。2009 年か

らは活動名を「Green Gift」プロジェクトと名付け「お客様と一緒に環境保護活動を推進する」という事をコンセプトにし、契約のしおりや保険証券等の紙の冊子を発行せず、お客様にホームページ上で確認頂くとする Web 化を進め、紙資源の使用量削減額の一部をマングローブ植林等の環境保護活動に役立てて来た。

更に東日本大震災を契機に 2013 年 10 月以降は、国内の環境保護活動にも対象を拡大、現在日本各地域の NPO と協働し環境保護活動はもとより市民参加型の環境保護イベントの開催もサポートしている。今後は当会の活動に対しても県と共に支援して頂けることになりました。

同社木内執行役員からは、地球環境保護が全ての企業にとって重要な責務であるとの認識に立ち、地球環境との調和、環境改善に配慮して行動しているとお話がありました。

続いて協定書が披露され、上山次長は「これまでの尽力で東京海上日動火災保険のプロジェクト事業に繋がったのを祝いたい。」と述べられました。

当会では両者の支援を受け、年内に 4 つのイベントを企画しています。3 月 1 日（土）の「やってみよう！したけつくり！」、5 月 3 日（土）の「わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！」、7 月 26 日（土）の「ならやまの昆虫観察と自然工作&バウムクーヘンを焼こう！」、8 月 23 日（土）の「ならやまの自然観察と自然工作&バウムクーヘンを焼こう！」と親子で楽しめるイベントを実施します。参加の皆さんにはこのイベントを通じ環境問題に関心を持って頂ける機会になる事を会員一同切に願っています。



最後に出席者全員で記念撮影を行い式典は無事終了しました。その後、ご出席の皆様には当会の活動拠点をご見学頂きました。

（辻本 信一）

環境保全活動で協定

県と東京海上
日動火災など

県と「奈良・人と自然の会」(藤田秀憲幹事会長)、東京海上日動火災保険は13日、奈良市佐紀町のならやまベースキャンプで「環境教育及び環境保全活動の促進に関する協定書」の締結式を行った。

式には県くらし創造部景観・環境局の上山幸寛次長、奈良・人と自然の会の藤田幹事会長、東京海上日動火災保険執行役員の木内充関西業務支援部長らが出席。

同保険奈良支店の由村俊樹支店長が、同社グリーンギフトプロジェクトの概要を紹介。



締結協定書の披露=13日、奈良市佐紀町のならやまベースキャンプ

木内執行役員は「グリーンギフトプロジェクト」は、お客さまと

ともに推進する環境保護活動。これまでに、東南アジアや南アジア

を中心にマングローフの植林を行ってきた。さらに東日本大震災を契機に、海外での植林に加え、国内の環境保護活動サポートにも取り組みを拡大。全国各地のNPOと協同し、環境保護活動はもとより、市民参加型の環境保護イベントの開催をサポートしていききたい」と話した。今後は奈良・人と自然の会の活動に、県とともに支援していくという。

続いて協定書が披露され、上山次長は「これまでで、東京海上日動火災保険のプロジェクト事業に繋がったのを祝いたい」と述べた。

奈良新聞

平成二十六年二月十四日

(1) 3月

◆【やってみよう! いいたけつくり!】

日時 平成26年3月1日(土)

雨天予備日 3月2日(日)

時間 10:00~15:00

<イベントの内容>

しいたけ菌打ち作業「原木づくりと植菌」、里山散策、自然の木を利用した山遊び



(2) 5月の連休期間中

◆【わくわく!ドキドキ!お山を歩こう!】

日時 平成26年5月3日(土)

雨天予備日 5月4日(日)

時間 10:00~15:00

<イベントの内容>

ポイントハイキング(昼食はならやまを予定)、自然の木を利用した山遊びと自然工作(笹竹の鯉のぼり)



(3) 夏休み期間中(2回)

A. 里山で遊ぼう(その1)

◆【ならやまの昆虫観察と自然工作 &

バウムクーヘンを焼こう!】

日時 平成26年7月26日(土)

雨天予備日 7月27日(日)

時間 10:00~15:00

<イベントの内容>

里山で昆虫観察と採集、バウムクーヘン焼き、自然工作
B. 里山で遊ぼう(その2)



◆【ならやまの自然観察と自然工作 &

バウムクーヘンを焼こう!】

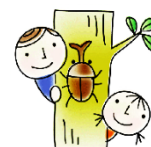
日時 平成26年8月23日(土)

雨天予備日 8月24日(日)

時間 10:00~15:00

<イベントの内容>

里山で自然観察と山遊び、バウムクーヘン焼き、自然工作



◆◆◆会員の皆様のスタッフ参加を

おまちしております。◆◆◆(事務局)

Monthly Rep. ならやま

◆1月23日(木) 晴れ 53名+5名

里山 G は、カシナガ被害伐採木の玉切りを行い、しいたけのほだ木として活用。農園 G は、水田の排水対策として U 字溝の埋め込み、エンドウ・タマネギ等の施肥。景観 G は、BC テント裏のジンチョウゲ等の花木の植え替え移転、水路の落ち葉清掃、ならやま池の水抜きを開始。ロウバイが開花。

◆1月30日(木) 雨

前日の降雨確率 80%、当日は予想通り雨で活動は中止。

◆2月6日(木) 曇りで非常に寒い 58名

午後、果樹をメインとした病虫害対策の勉強会を開き、大勢の会員が参加。BC のテント支柱の作り換え。参加者全員に福袋が支給されてみなさんニコニコ。



里山 G はカシナガ被害伐採木の玉切りを行い、薪材として活用。農園 G は水田、クワイ畑、ダイコン畑へのチップ投入を図り、地力の回復を実施。

景観 G は竹林の整備、ならやま池の泥上げ、レンゲ草花壇・山野草花壇の除草。ならやま池でカワセミを確認。



◆2月13日(木) 曇り 58名+12名

グリーンギフトプロジェクトの協定書締結式が BC で実施され、奈良県、スポンサーの東京

海上日動火災 KK、当会の 3 者で調印を行った。今後これに基づき、子ども達に対して環境教育を促進するイベントを 4 回行う。第 1 回目は 3 月 1 日にしいたけ菌打ちイベントを予定している。

里山 G はカシナガ被害伐採木の玉切りを行い、薪材として活用。農園 G はナス栽培地の地力改善としてチップと珪カルを施す。景観 G はシーズンに向けて刈り払い機の整備を行い、BC 裏の笹の刈り取り、竹林の整備、さらに第 5 地区の竹林の整備を行い、希少植物の保護にも注意払う。ソシンロウバイの開花が始まる。ミツバチ巣箱の周囲にロープを張り、安全対策を図る。

◆2月20日(木) 晴れ 57名

朝は冷えたが後天気が好くなり快適な活動が出来た。ウメの開花も始まる。

里山 G は、カシナガ伐採木からの薪作り、3/1 のイベントの下準備。農園 G は、野菜畑へのチップ入れ



と育苗ハウス作り、良い苗の育苗が期待される。景観 G は、BC 裏のゴミの移動と地中の畳ごみの処分、ならやま池の排水口の整備と水入れ。(木村 裕)



ならやま花だより 山中笙子



ペタキン日記 22 羽尻 嵩

2月20日(木) 寒さの一番厳しい2月には、暖かい春の訪れを待つロゼット(バラの花のような形)状態の植物がたくさん見られます。スイバ、ハハコグサ、ノゲシ(写真順)等。タンポポやオオバコは一年中ロゼットで過ごします。そのメリットは、①地面に張りついて寒さや乾燥を避けやすい。②葉が重ならないよう放射状に広げ太陽光をいっぱい受けられる。③この状態で、春に発芽する他の植物より早く成長できる。④葉だけなので芽を動物などに食べられにくい。3月に入れば中心の幼葉が立ち上がり芽吹きも始まるでしょう。木々も春に向けて着々と準備中。タカノツメが名前どおりに鷹の爪のような芽を膨らませ、ネジキが光沢のある紅色の1年枝と冬芽を見せています。その美しさから花材に利用され、アカメとかヌリバシと呼ばれたりします。春よ来い、は一やく来い。

ネジキ タカノツメ
冬芽

【草花】オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ハコベ、ナズナ、タネツケバナ、セイヨウタンポポ

【草の実】ツルアリドオン

【木の花】ヤブツバキ、梅

【木の蕾】ミツマタ、クロモジ、アセビ、ヒサカキ(蕾と実)、ジンチョウゲ

【木の実】スイカズラ、センリョウ、ヤブコウジ、クチナシ、ソヨゴ、ナンテン、フユイチゴ

【花壇】スイセン

1月30日 雨で定例の活動は中止となったが、ペタキンやタガイ、シマヒレヨシノボリをタナゴ池に復帰させる作業を近大班3名と行った。保護池に入れて置いたタナゴを捕獲する。サデ網で何度も水をすくう。しかし結局、ペタキンは7匹しか捕獲できなかった。

12月2日にタナゴ池から66匹、その後ならやま池にいた4~5匹、合わせて70匹ほど入れて置いたペタキンは一体どこに消えたのか。1年前は保護していた100匹以上のペタキンがすべて捕獲されたのに。保護池の環境は昨年と今年とどう違うのか。昨年のことをよくよく思い出してみ、ハタと気が付いた。昨年は保護池の上に保護用のネットをかぶせ、池の中にも笹竹や枯草をたくさん入れていたが、今年は池の上にカラス除けの紐を何本か張っただけでネットをかぶせていなかったし、笹竹も入れてなかったのだ。今年の保護池はカラスの侵入は防いでも、水に潜る小さな鳥なら容易に魚などを取ることが出来る状態だったのだ。水にもぐり魚を取る鳥で、「ならやまBC」にきている鳥といえ、昨年の5月にタナゴ池のネットを破って池に侵入していたカワセミだ。

そう推理しながら「ならやまBC」を出ていこうとした時、なんと、その容疑者を目の当たりにした。カワセミが1羽、ならやま池の杭の上でこちらの様子をうかがっていたのだ!

2月6日 カワセミはこの日もやってきた。

2月13日 カワセミはこの日もやってきた。また、6日に修理したタナゴ池のネットがずたずたに破れていた。弱っていたネットが積もった雪の重みに持ちこたえられなかったのか。



春一番の昆虫

菊川年明



パトロール班 Repo.

足立勝洋

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、3月の上旬と下旬とでは気温はだいぶ違うが、それでも3月ともなると日差しはずいぶん明るくなり、その変化がはっきり感じられる。

上旬には成虫で越冬していた昆虫が、現れ始める。目につきやすいのはチョウの仲間で、テングチョウ、ルリタテハ、キタテハ、キタキチョウ（従来キチョウと呼ばれていたもの）などである。陽光を体いっぱい浴びるために翅を開いて止まっているのを目にすることが多い。

草むらに目をやると、ナナホシテントウ、イタドリハムシなどの小さな甲虫が活動を始めていることに気づくであろう。成虫で越冬していたバッタの仲間では大型のツチイナゴやごく小さなヒシバッタ類も動き始めている。

そのうちにモンシロチョウも現れる。モンシロチョウは蛹で越冬しているので羽化して現れるのである。気象庁では季節の移ろいを調べるのに動植物を用いた生物季節観測という観測も行っており、モンシロチョウはその対象になっている。近畿地方ではたいてい3月某日にモンシロチョウの初見があったというように発表されている。

お彼岸も過ぎて3月下旬になるとキアゲハ、ベニシジミ、モンキチョウなども現れる。いよいよ春本番の到来である。年間複数回発生（羽化）するチョウで、春先に発生するものは概して小ぶりであるが色彩は鮮やかという特徴がある。続いてナミアゲハも現れる。

（写真は昨年3月上旬に撮影したルリタテハ）



私が、奈良・人と自然の会に入会してから、ほぼ一年が経とうとしています。山に入って観察を行う班ということで、早速、班に入れて頂きました。シニア自然大学校のような感じの観察会を楽しむという訳にはいかず、色んな作業が結構多いのですが、それはそれで楽しめ、良い一年を過ごせたと思っています。そこで、どんな活動をしているのか、広報の意味でも、ここにご紹介したいと思います。なかなか実質有益な活動です。

◆コースのルーティング：現在4コースあります。時々、異常地形、他人の所有地を避ける等の理由で、小変更もあるようです。森は四季それぞれの顔を見せて呉れ、嬉しいです。

◆コース案内、分岐点、主要地点等に案内板を作成設置します。

◆山道に階段を設けたり、手摺り替わりのロープを張ったりして、会員は勿論、訪問者の便利に供します。

◆珍しい植物等に足を踏み入れないように、ロープを張ったりします。逆に在りかを知らせて盗掘にあったらしいということもありました。また、それ程珍しい種類でなくても、所々に樹木の名札を付けました。

◆風雪や枯れ朽ちによる山道への倒木処理、また山道周辺で繁茂した笹の伐採など自分達で出来る範囲であれば班内で作業をします。大掛かりな場合は環境整備班の方々にお願いします。

◆パトロール巡回時に、ポリ袋を携え、ゴミ拾いを行います。有難いことに山中には滅多にゴミは落ちていませんが、矢張りサイクリング道周辺には、心無い落し物が多いですね。

さて、このような活動は毎週木曜日の午後に行いますが、活動日以外の日時にも作業を下さっている人も居られます。また、草木・昆虫に詳しい人、看板でも何でもサッサッと作って下さる人、彫刻、ペイントをして下さる人等々楽しいお仲間が嬉しいです。

歴史研修会 河内馬飼いの里

2月5日、今冬一番の寒さにも負けず22名が参加して、歴史文化クラブ研修会を行いました。今回は四条畷市立歴史民俗資料館を訪問し特別展示「大和王権を支えた馬飼いの里」の見学と野島館長の解説を聞き、教育委員会村上主任の案内で四条畷市内の遺跡を巡るウォークなど、歴史のロマンに浸る一日となりました。

5世紀大陸から初めて馬が持ち込まれて以来、河内湖の北岸（今の四条畷市、寝屋川市）では渡来人が牧で馬を飼育していました。後の持統天皇となる鸕野讃良皇女はこの地で育てられたとも言われます。

野島館長は、我々のために用意されたパワーポイントで、讃良の里に広がった馬の牧場や渡来人の営み、馬の祭祀跡や馬を運んだ古代船、馬に不可欠な塩を造る土器、韓式系土器などの出土品に基づいて説明されました。また、この地で水田を営んでいた人々と、渡来人の集団とが平和に共存していたとの説明があり、この里で育った鸕野讃良皇女（後の持統天皇）が牧場で馬に親しむ風景も想像したことでした。

展示室には、縄文時代の石棒、弥生時代の人骨、水田の跡、4世紀の忍岡古墳、埴輪、古代の準構造船など、この地域の歴史を物語る興味深いものが沢山あって、皆も熱心に見学しました。



四条畷市立歴史民俗資料館 最後列左端が野島館長

午後の部は、市教育委員会社会教育課の村上始主任のご案内で、四条畷市の縄文・弥生から近世に至る数々の遺跡を巡りました。

まず、資料館の前の東高野街道沿いに「墓の堂古墳」（全長62m）。現在は共同墓地になっていますが、十三仏の石碑があります。この地には十三仏の石碑が数多くみられます。

次ぎは、清滝街道（大和と北河内を結ぶ古道）沿いの中野正法寺。境内にある十三仏石碑、六字名号の石碑と石橋は、一つの石棺を再利用したことが確認されています。

JR忍ヶ丘駅付近の数多くの遺跡を巡った後、忍岡の頂上にある忍陵神社に到着。この神社建物の下に、古墳時代前期の全長87mの前方後円墳があり、この地を治めていた王の墓とのことでした。

最後のポイントは、有名な馬の全身骨格の出土した「葎屋北遺跡」（なわて水みらいセンター）。ここで歴史ウォークが終了しました。



葎屋北遺跡 馬一体の骨格が出土した場所

今回の研修会では、四条畷市一帯には河内馬飼いの里に止まらず、縄文・弥生・古墳時代にまたがる数多くの遺跡があることを学びました。特別のご配慮を頂いた歴史民俗資料館と教育委員会の皆様に深く感謝したいと思います。また企画を進められた川口達夫会員にもお礼申し上げます。

（坂東久平）

やさしい昆虫講座 41 寒さもなんのその 木村 裕

ならやまで活動しておられる皆さん、12月の活動日にコナラ林の陽だまりで群がって飛びかっていた茶色の蛾を覚えておられますか？ まるでチョウの乱舞のようでしたね。

12月と言えば季節的には初冬で寒さも日増しに厳しくなっており、昆虫たちはみんな樹の皮の下、草むらの中、土の中ですでに冬越しに入っています。しかし、この蛾のみがどうしたわけか飛び回っています。この蛾に言わせると、これが正常で一番大事な時だそうです。

この蛾は「クロスジフユエダシャク」と呼ばれています。体全体は淡褐色ですが、羽根に黒い帯模様があって冬に発生し、幼虫が木の枝そっくりの形をした尺取虫であることからこの名前が付けられたようです。



この飛び回っている褐色の蛾は全てオスです。メスの蛾の羽は小さく退化していて飛ぶことはできません。樹の表面を歩きまわっていますので、目に付くことはほとんどありません。

メス成虫は樹の枝や幹の上に産卵し、卵の状態ですぐに冬を越し、翌春幼虫が孵化します。幼虫は胸部に小さな脚が6本(3対)と腹部末端に4本(2対)の脚があるのみで、中央部にはありません(アオムシやイモムシは腹部中央にも10本程度の脚がある)。そのため、歩くときは胸の足で枝をつかんで腹部末端の脚を前方へ移動、次に腹部末端の脚でしっかり枝をつかんで体を支え、胸部の脚を外して前方へ移動させます。体全体を伸び縮みさせて距離を測っているかのように見えますので尺取虫という名がつけられています。

サクラに発生する「チャバネフユエダシャク」も成虫の蛾が12月頃に発生しますが、同じようにメスは羽根が退化しています。生駒山や矢田山のサクラでごく普通に発生しています。



尺取虫仲間全体から見ればこのように冬に発生するのは少数派で、ほとんどの種類は春から初夏にかけて樹木で発生します。体型、色彩、模様など種々雑多で非常に綺麗な虫もいます。ほとんどの種類は控えめで木の葉を丸坊主にすることはないので発生しても実害は低く見過ごされています。しかし、マサキにつく「ユウマダラエダシャク」はしばしば多発して葉を丸坊主にすることがあります。

話は戻りますが、冬に発生する生き物に「ハクサイハダニ」と呼ばれる綺麗なダニがいます。名前の通り、ハクサイ、ダイコン、ホウレンソウなどに突発的に発生します。



本城寺

額田王の晩年を想う

藤田秀憲

日本書紀巻28に「(天武)天皇初娶鏡王女額田姫王生十市皇女」とある。

額田王は乙巳の変、大化の改新、白村江の敗戦、近江遷都、壬申の乱と内政外交に変革と抗争が続いた飛鳥時代中期を鮮やかに生きた女性である。

霊力をもつ巫女的性格をもって皇極(斉明)天皇に仕え、最初は大和皇子と結ばれ17才で十市皇女を生み、後に中大兄皇子に召された。催事の歌舞に巧みで、催事後の饗宴を宰領し、即興の才と社交性を生かし、華やかな宮廷生活を送った。万葉集に残された長歌3首、短歌9首から時代の息吹を生きいきと感ずることが出来る。

天智天皇崩御(671)後、半年を経ず壬申の乱(672)が勃発、娘婿の大友皇子は敗退自死、大和皇子は飛鳥浄御原宮で即位(天武天皇)した。額田王は失意の娘と幼い孫(葛野王)に付き添い、明日香に戻り、静かな生活に入った。

6年後の額田王43才の時、十市皇女は伊勢神宮の斎宮として伊勢に赴く直前、宮中で亡くなり、天武天皇は大いに悲しみ赤穂に葬ったと日本書紀にある。以後、孫(葛野王9才)の行く末を見守ることが額田王の生きがいとなる。当時の神祇・政治の有力者である中臣大嶋(不比等の後桶、又従兄弟)と再婚したのもこの頃ではないかと考えている。

天武天皇が崩御(686)し持統称制の中、草壁皇子への皇位継承のため、大津皇子処刑事件が起こるが、肝心の草壁皇太子が病弱で薨御したため、孫の軽皇子(6才)への皇位継承の中継ぎとして持統天皇が即位(690)する。

「懷風藻」によれば、太政大臣の高市皇子が薨去(696)したとき、多くの天武の皇子が居並ぶ中、軽皇子への皇位継承を画策した持統は、額田王を通じて葛野王に「我国では古来から直系相続が行われており、兄弟相続は争いの元だ!」と言わしめ、軽皇子への皇位継承を確実なものにした。

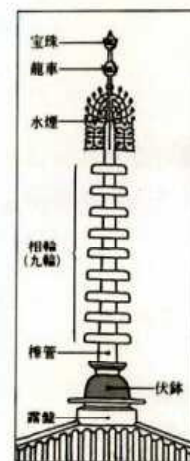
文武天皇(軽皇子)の即位(697)を見届けた持統太政天皇は701年に崩御するが、707年に文武天皇も25才の若さで崩御(首皇子7才)したため、草壁皇子の妃の阿閉皇女が即位(元明天皇)し、藤原不比等の主導で平城京へ遷都した。

談山神社の国宝「栗原寺三重塔伏鉢」の銘文によれば、689年中臣大嶋(藤原鎌足の従兄弟の中臣許米の子)は草壁皇太子の菩提を弔うために、栗原寺(おうばらでら)の造営を発願するが果たせず、大嶋の死後、比売朝臣額田が持統天皇8年(694)から和銅8年(715)までの22年を費やして、この地に伽藍を建て、丈六釈迦仏像を鑄造し、金堂に安置した。また三重宝塔に七科の鑪盤を進上し、「草壁皇太子神霊速やかに無上菩提の果を証せんことを」「七世の先霊(斉明天皇、天智天皇、大友皇子、十市皇女、天武天皇、持統天皇、文武天皇)共に彼岸に登らんことを」「大嶋大夫必ず仏果を得んことを」願ったとある。

この比売朝臣額田が皇籍を離れて、中臣大嶋と再婚した額田王ではないかといわれている。



栗原寺三重塔伏鉢
(飛鳥時代国宝)
高さ 35.2 cm
直径 76.4 cm
(談山神社所蔵)



(銘文)
寺堂院四至...
此栗原寺者仲臣朝臣大嶋惶惶誓願
奉為大倭國淨美原宮治天下天皇時
日並御宇東宮敬造伽藍之爾故比賣
朝臣額田以甲午年始至於和銅八年
合廿二年中敬造伽藍而作金堂仍造
釋迦丈六尊像
和銅八年四月敬以進上於三重寶塔
七科鑪盤矣
仰願藉此功德
皇太子神霊速證無上菩提果
願七世先靈共登彼岸
願大嶋大夫心得佛果
願及含識俱成正覺

(談山神社ホームページより)

晩年の額田王は夫の遺志を受け継ぎ、亡き人々の菩提を弔いながら栗原寺の完成を心の支えに、静かに長寿を全うした。715年、栗原寺の完成を待って額田王は80才で亡くなった。



水彩画 (山本妙子) 「金目鯛」

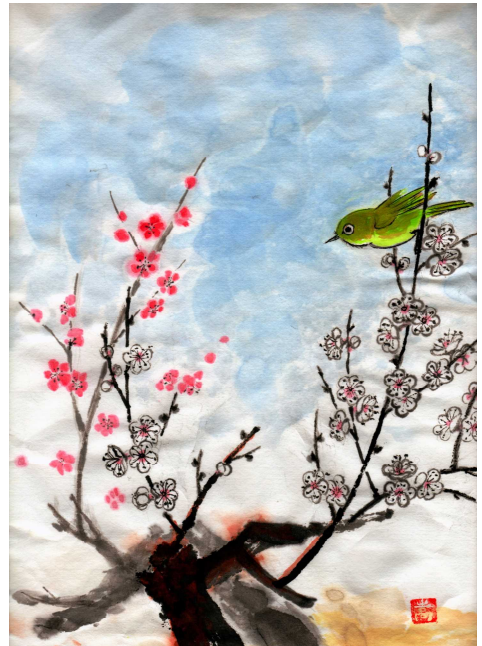
墨彩画 (羽尻 嵩) 「朋来る」

陶芸 (小島武雄) 「子猫」「猫マグカップ」

クラフト (鈴木末一) 「お雛様」



朋
来
る



▲ 金目鯛 (金メダル?)



▲ お雛様



▲ 子猫



▲ 猫マグカップ

**仲間入い
しました!**

入会させていただいて
平山 義正

私は1月23日に入会させていただきました平山義正と申します、昭和22年生まれの66歳です。門真市から生駒市壱分町の生駒神社の近くに古妻と二人で棲み着いて丸16年が経ちました、一段落した今、出来た時間をより楽しい事に使いたいと考えていた時、里山保全のボランテ

ィアの存在を知り入会しました。

この活動の一部には、25年程前から私も夢中になった、キャンプ遊びと重なる様な作業が多々あります、因みに今使っている鉋等も当時からのもです、こちらでも竹や雑木を切らせていただく等、厚かましくも毎木曜日は出来る限り参加し、デーキャンプを楽しむつもりです、どうぞ宜しくお願いします。

丹精の梅一輪の真かな

まこと

古川祐司

里山梅畑蘇生。梅と人との真心の交歓が表出され
梅守の作者の心意気に拍手。快心の一句。

山猫の咄で更ける春の宵

古川祐司

さる日、石垣島を訪ねられたとか。イリオモテ
ヤマネコの話に夢中。春宵値千金の夜が更ける。

雪明りブルツと身構え廁行き

阿部和生

雪景色と廁のユニークな句。小用の際、身震いする
様がブルツとの措辞で滑稽味のある仕立てになっている。
佳句。

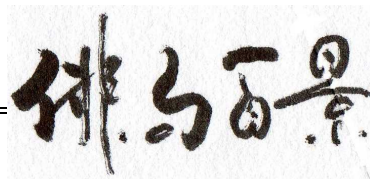
夕闇を急ぐ家路に猫の恋

樋口善雄

「猫の恋」は春の季語。猫の求愛活動の季節になり
ました。日が暮れると艶めかしい声が耳障り。
人間様も若い頃は猫と変わりないですな。リズム良し。
季語も的確。

雪松景四十七士を思ひたり

奈良地方は二十年ぶりに大雪警報。雪景色は情感の中に
想像力が広がる。赤穂浪士の討ち入りか、内蔵助の
揺泉院の別れを彷彿とさせる。「雪松葉」が効果的。



監修 川井秀夫

四温晴れ人みな和むやうに見え

西谷範子

季語は三寒四温の暖かい日。寒中にもこんな春の陽気を
感じる日がある。人々の顔にも柔和な表情が読み取れる。
日常の何気ない写生観に何時もながら脱帽。

吹く風に身を晒しても雨水かな

八木順一

作者はベテランライダー。二十四節季を体で感じとる。
東風が吹くと春の予兆か。季節は春の序曲を奏でる。

枯死愛し残影消えぬしだれ花

川井秀夫

里山のシンボルツリーが消える。蘇生の願いも空しく
残念。一月十六日伐倒。命日は昨年八月一日。合掌。

春寒や古代を紡ぐ讃良川

川井秀夫

歴・文クラブ二月のオプシヨ行事。四条畷・馬飼の里
を訪う。持統天皇（鸕野讃良皇女）生地。数々の古代文化
に接し、馬を飼って遊ぶ皇女の姿が脳裏を過ぎる。

いにしえの畷の牧に寒戻る

川井秀夫

立春とは言え寒い一日。四条畷には縄文から古墳時代の
出土品が多く、馬の文化発祥の地と言われる。
牧は俳句用語。現在の牧場を指す。



音もなく降る春雪の静けき調べよ

谷川 萬太郎

凍える指に纏わりつく粉雪が 優しくそっと触れて小声で囁く
寒さに震える貴方のその姿が なんといじらしくそして健気だと
いつか空が細雪に変わる頃 恨めしさに耐えた貴方の顔が綻ぶ
人影も途絶えた拡がる雪原で 降り積もる雪が小声で口を開く
静けさの中に時を待つだけ 慌てずそっと今は白夜の眠りの中

一瞬の狭間に近くて遠い故郷は 白い魔物の棲家に呑みこまれ
滑らかな人肌恋しいうねりの中に その身を委ねた和めるあなた
産声上げた小熊が穴倉ではしゃぎ 小鳥は羽根を擦り寄せお喋り
春運ぶ川の流れの冷たさに驚きて 肩を落として白い溜息をつく
消えゆく季節の忘れな草は儚く 春待人に逢いたいと心密やかに



「里山の愛車たち」

竹本雅昭

ベースキャンプ：やあ！今日も大勢来てく
れて嬉しいな。車が30台、単車7台、
自転車2台、人々が56人と寒い中ご苦
労さん。

スポーツカー：あのう僕ここに居てよろし
いでしょうか。

キャンプ：おや君は初めてだね。どうぞど
うぞご主人の帰る迄ゆっくりしていて。

ホワイトカー：ここでは軽快に走る道はな
いけど、土の駐車場の感触はどうかね。

スポーツ：そうですね、少しタイヤの汚れ
が気になるけど。でも暇ですね、さっ
きからしなびた柿をカラスが食べてる
けど一体何個あるのか、数えては途中
で分からなくなるんです。

ブルーカー：今朝はゲージが-3℃を示し
たから柿も固いことやろな。

シルバーカー：人々の中には帰りに"ゆらら"
へ飛んでゆく人もあり、頭に手拭を乗せ
て話がはずむとか。君はどうかね。

スポーツ：僕は高速道をスピード出して走る
のが何より好き、前の車を追い越す時の
気分のええこと最高ですわ。

レッドカー：そない走ったら、よう捕まるん
とちがうか。

スポーツ：例え捕まっても怒られるのはご主
人だけや、僕には責任おまへん。

グリーンカー：ご主人は年輩やけど大事にし
てくれはるか。

スポーツ：そりやあもう、時には若者に乗っ
てもらったら、娘さん達からチャホやし
てもらえるのになあと思ったり……。



ならやま景観整備

活動予定日

3 月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)
4 月	3 (木) 24 (木)	10 (木)	17 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

*.+ ★ ————— *.+ ★ ————— *.+ ★ —————

3月6日

- <里山Gr> しいたけ・なめこ菌打ち作業
第五地区 通路整備および竹林整備
- <エコア-Gr> 茄子・唐辛子類の苗床への播種、
馬鈴薯畑畝作り
- <景観Gr> B C.、彩の道草刈り、竹きり
秋明菊移植、タラノキ園整備
ならやま池生物調査
池・湿地の整備

3月13日

- <里山Gr> しいたけ・なめこ菌打ち作業
第五地区 通路整備および竹林整備
伐採済コナラの薪・焼却用玉切り、
枝葉整理、燻蒸処理
- <エコア-Gr> 茄子・唐辛子類の幼苗移植、
馬鈴薯植え付け
人参・蕪・大根・サツマイモ畑の畝作り
- <景観Gr> BC周辺整備、倉庫整備
日陰植物園草引き整備
池整備

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



カップ



- ◆ 携行品：弁当、飲み物、軍手など
(お昼に豚汁の提供があります)



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕

*.+ ★ ————— *.+ ★ ————— *.+ ★ —————

3月20日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り、
枝葉整理、燻蒸処理
- <エコア-Gr> 各種葉菜類播種
- <景観Gr> たんぼ池周辺整備、熊笹かり
ドイツアヤメ草引き、夏花種播き
ならやま池生物調査

3月27日

- <里山Gr> 燻蒸処理および薪割り機による薪
の製作
- <エコア-Gr> 茄子畑と里芋畑の畝作り
- <景観Gr> ならやま会館前整備
彼岸花、花苕荷移植
池の整備





校庭の自然観察会で
活動してみませんか！

自然教室チーム 一同

「10 円玉がこんなにきれいになった！すごい！」「木の鉛筆で葉っぱに字が書けた！」「モミジのプロペラがくるくる回るよ！」子供たちの楽しそうな声が響く。「何で？」「どうして？」質問もいっぱい飛んでくる。校庭の自然観察会の風景である。

奈良・人と自然の会で校庭の自然観察会を初めて 5 年が経つ。子供たちにもっと自然の不思議や魅力に触れてもらい、もっともっと自然に親しんでほしい、自然が好きになってほしいとの願いで始まった活動である。



ご存じのとおり子供たちが自然に触れる機会は驚くほど減ってきた。クラブ活動や習い事に加えて、塾通い、ゲームの世界など自然との接触は少なくなる一方のようである。実際に子供たちに尋ねてみてもあまり自然遊びをしたことがないようだ。そしてその親たちも残念ながら自然と縁のない人たちが多いように思われる。

私たちシニア世代のものはそれなりに野山や川で遊んだ思い出を持っているだろう。花飾り、花の蜜なめ、川に入っての魚とり、昆虫採集、食べられる実のおやつ など楽しかったことがいっぱいあるのではなかろうか。



子供たちに自然と接触する楽しさ、自然遊びをする楽しさを伝える活動を私たちシニア世代

がもっとやってはどうかという意向を当時の阿部会長が強く打ち出され、大阪でそうした活動をしているシニア自然大学インタープリテーション科とタイアップして奈良での小学校の校庭の自然観察会が始まった。

それから少しずつ範囲を広げ、推進母体としての自然教室チームも作ってこじんまりとした活動を進めている。その内容はネイチャーなら 2 月号に記載のとおりである。

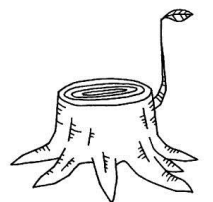
私たちは何も難しいことを教えようとしているわけではない。子供たちと一緒に

①「見る」「さわる」「匂いをかぐ」「聞く」「味わう」という五感を使って、身近な自然に接してもらう

②さまざまな自然遊びを体験してもらう

③ちょっとした自然工作を楽しんでもらうという活動をしている。そして大切な事は私たち自身が楽しみながら行う活動だということである。

実際の進め方は子供たちを少人数のグループに分け、私たちが一人ずつリーダーとして加わり、一緒に活動する。基本的に取り上げるポイントはみんなで下見をして決め、また話の基本シナリオは大筋で共通のものを作るなど、誰でもできるように丁寧でやりやすい運営を心がけている。



もちろん校庭の自然観察会の活動は何の準備もなしに、誰でもすぐできる活動だとは言わない。それなりに努力を要し、また経験を重ねて行くことが求められる。そうした状況を踏まえてもやりがいのある活動だと思うのだが、いかがだろうか。

自然教室チームの活動に賛同し、一緒に進めていただける方を心よりお待ちしております。質問を含めて、スタッフに声をかけていただきたい。

担当：倉田 晃 高本 実男 平岡 久美



自然教室チーム だより ②



2月の自然観察会

「自然工作を楽しもう！」実施報告

2月18日の午後 奈良ボランティアセンターで自然工作を楽しみました。14名が参加し櫻木さんの指導で以下の5つの作品に挑戦しました。

「ドングリゴマ」はドングリに爪楊枝を挿し、マーカーで色付けをして廻します。廻すとききれいな色模様ができました。

「竹の輪の壁飾り」は小さな折鶴を作り、ビーズ玉とテグス糸で竹の輪につるすものです。ビーズをテグス糸に留める作業、そのテグス糸を竹輪に通す工程は老眼の人たちには大変厳しい作業となりました。

「小枝のエンピツ」は先を削った小枝にヒートンやリリアンを付け、飾り付けに使えるようにしました。先端を好きな色に塗ってかわいいエンピツができました。

「ヒマワリのペンダント」は太目の枝を細く輪切りにして中心に木の実などを置き、周りに彩色したカボチャの種を貼り付けました。リリアンをテープでとめて出来上がりです。

「紙トンボ」は牛乳パックを細長く切り、ストローをはめ込んで廻します。これなら人に当たっても全然問題ないと好評でした。

みんな童心に帰って、夢中で作品作りに取り掛かりました。「初めてこんな工作をした」「とても楽しかった」「かわいい作品ができてうれしい」「早速孫たちに作ってやりたい」など参加者は十分に満足した行事となりました。

事前に十分な準備をしていただいた櫻木さんに感謝の言葉がいっぱいだったことも言うまでもありません。

(倉田 晃)



3月の自然観察会のお知らせ

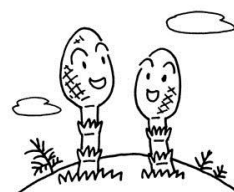
「春のならやまを楽しむ」

3月の自然観察会はならやまパトロール班の皆さんに道案内をお願いして、H25年度第2回目のならやま自然観察会を行います。

ならやまの活動に励んでおられる方もお膝下の自然に接する機会は意外と少ないかもしれません。みんなで一緒に歩き、春のならやまを楽しみたいと思います。

午後はベースキャンプ近辺でいくつかの自然遊びをする予定です。

参加は自然教室チームメンバーに限りません。全く自由です。多数のみなさんのご参加をお待ちしています。



1. 日時：3月10日（月）10時～14時
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：ならやまの自然観察と自然遊び
4. 道案内：パトロール班の皆さん
5. 持参するもの：食事、飲み物、雨具、ルーペなどの観察用具（あれば）
6. 担当：倉田、高本、平岡

4月の自然観察会のお知らせ

「万葉の苑」の自然観察

自然教室チームでは4月の打合せ会終了後のひと時を鴻池運動場にある「万葉の苑」で自然観察をして過ごします。

自然観察に興味のある方はご参加ください。

1. 日時：4月15日（火）13時～15時の予定
2. 集合：奈良市ボランティアセンター入口前
13時集合



行事案内

3月例会のお知らせ

3月の例会(歴史文クラブと共催)は巨勢古道を歩きます。巨勢寺跡、椿の名所阿吽寺、西尾邸にある国史跡の水泥古墳などを見学し、栗阪峠から金剛・葛城の素晴らしい展望を楽しみながら葛木御歳神社、花の船宿寺へと巡ります。解散は15:30の予定です。



距離は10キロ余りですが、なだらかな道ですので無理なく楽しめます(80歳の2人が下見)。名物の椿のほかに早春の息吹あふ

れる巨勢の自然を満喫できることでしょう。多数の皆様のご参加をお待ちします。

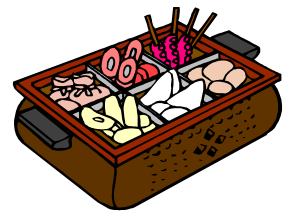
- ・月日：3月25日(火)
- ・集合：近鉄吉野線 葛駅改札口9時30分
- ・交通機関
 - ①阿部野橋 南大阪線吉野行8:20発
 - ②西大寺8:21発⇒樫原神宮前(乗換)
 - ⇒吉野線葛駅9:18着
- ・連絡先：寺田 孝
古川祐司



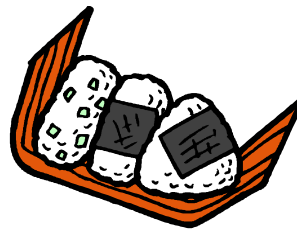
新入会員歓迎会



- ◆日 時：平成26年3月20日(木)
午前9時：受付開始
12時～14時半：懇親会
新入会員の方には自己紹介をお願いします。
(雨天順延時の予備日：3月27日(木))
- ◆場所：ならやまベースキャンプ
- ◆会費：500円(新入会員は無料です。)
- ◆メニュー：バーベキュー・焼きそば・おでん



※各自おにぎりをご持参願います。



※なお、お皿とお箸などもお忘れのないようお願いします!

※ノーマイカーデー

(アルコールが出ますので電車・バスでの来場をお願い致します。)

昨年度途中で入会された方も新入会員として歓迎させていただきます。
奮って御参加下さい



行 事 案 内

4月例会 予告



「背割堤の桜を愛でる」 一八幡市を訪ねてー

4月例会は、いつものようにお花見。今年は吉野や比叡と並んで桜の名所として名高い八幡市の背割堤を訪ねます。ここには1, 5キロの間に250本のソメイヨシノが咲き乱れ、見事な景観を呈します。

京阪・橋本駅に集合し、ゆるやかな男山の西側を巡りながら頂上の石清水八幡宮へ。ここは歴史に度々登場する有名な神社。一度は訪れてみたい所です。

その後は男山を下り、背割堤へ。満開の桜を愛でながら昼食を摂りますが、川を挟んで対岸には天王山も望むことができる素晴らしい所でもあります。沢山の方の参加をお待ちします。

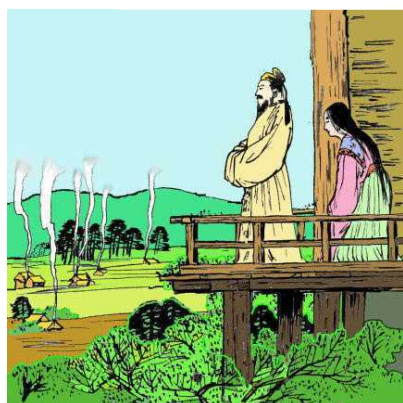
◆日時；4月7日（月）

◆集合；京阪本線「橋本駅」9時30分

◆幹事；八木順一

寺田 孝

奈良学クイズ



（問1）

左の図から連想される2人の人物名をお答えください。



（問2）写真の男性から連想される女性の人物名をお答えください。

（問3）

問1と問2の女性に縁の地名を漢字3文字でお答えください。

平成26年度

速報！

「例会」年間計画

平成26年度の「例会年間計画」概容が2月の幹事会で承認されました。速報としてお届けします。皆さまの年間スケジュールに入れていただければ幸いです。

我が会の発足以来の歴史を持つ「例会」活動は、昨今「自然教室チーム」や「歴史・文化クラブ」の協力を得て、一層中身の濃いものになっています。

新年度は、従来の奈良周辺だけでなく、比較的交通の便の良い京都（4月―「背割堤桜」、12月―「宇治」）や和歌山（9月―「高野山町石道」）を入れました。10月の一泊研修旅行は、京都府美山町の「京都大学研究林」として知られ、手つかずの自然が残る「芦生原生林」を訪ねます。

その他、各々年2回ある「自然観察会」や「歴史・文化探訪」も綿密な準備のもと充実した企画となっています。

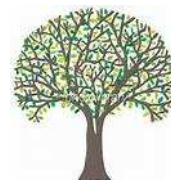
新年度も、多くの方のご参加をお待ちしています。

◇平成26年度「例会」年間計画概要◇

実施月日	企 画	
	月 日	テ ー マ
4	7	春ハイク
5	14	自然観察
6	未定	歴文探訪
7	22	健康歩き
8	未定	自然研修
9	4週	街道歩き
10	中旬	一泊研修
11	未定	自然観察
12	8	秋ハイク
1	未定	講 演 会
2	未定	冬鳥探鳥
3	未定	歴文探訪

「例会」統括担当 寺田 孝

八木順一



編輯子一ム・代表 鈴木末一